

「しごと」分野

政策  
3

もうかる農林水産業の実現

本県の農林水産業は、豊かな自然と農林水産資源に恵まれ、首都圏近隣という立地条件をいかし、県民の暮らしを支える主要産業の一つとなっています。

東日本大震災・原子力災害により、県産農林水産物等の生産・販売は大きく落ち込みました。震災後10年が経過し、回復傾向にはあるものの、販売価格は、依然として震災前の水準に回復していない品目が多く残っています。風評を払拭しつつ、産地間競争の激化に対応し、消費者等から選ばれるよう県産農林水産物の価値を高めていく必要があります。

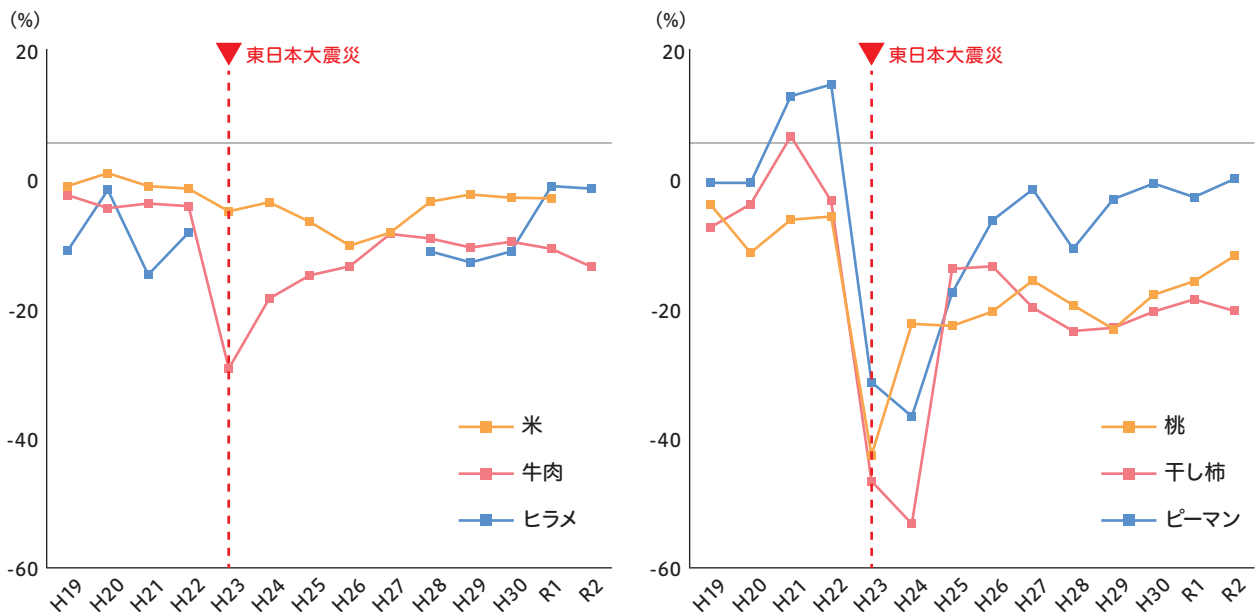
また、農林水産業従事者は減少傾向が続いていることから、担い手の確保が急務となっており、生産基盤の強化や生産性の向上を図りつつ、農林水産業全体の担い手の確保・育成などに取り組んでいく必要があります。

加えて、農林水産業・農山漁村が持つ食料の供給や水源の涵養（かんよう）などの多面的機能を維持することも重要であり、その重要性の理解促進を図る必要があります。



知事による農産物トップセールス

福島県産農林水産物と全国平均の価格差の推移



※価格の指数は、福島県産品と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値  
 ※牛肉、干し柿、ヒラメは年度単位、桃とピーマンは7-9月の値、米は産年ごとの値

※令和2年度は、令和2年12月までの実績を使用  
 ※干し柿にはあんぼ柿以外も含む

出典：農林水産省「令和2年度福島県農産物等実態調査」

## 施策

## 1

## 農林水産業の多様な担い手の確保・育成

担い手の減少や高齢化等が進む中で、意欲的な農業者や集落営農組織の組織化・法人化、研修制度の充実などにより、農林水産業の多様な担い手の確保・育成を図ります。



## 【主な取組】

## ①農業担い手の確保・育成に関する取組

認定農業者への技術・経営両面からの支援、意欲的な農業者や集落営農組織の組織化・法人化、企業等の農業参入促進等により、地域農業の核となる担い手を育成します。また、研修制度の充実、地域全体でサポートする体制づくり、第三者継承の推進等により、多様な新規就農者の確保・定着を促進します。

## ②林業担い手の確保・育成に関する取組

林業労働者の安全衛生の確保や福利厚生充実を推進するとともに、林業事業者の経営合理化や新事業の展開を促進します。また、新たな研修講座開設等により、新規林業就業者の確保・育成を図ります。

## ③漁業担い手の確保・育成に関する取組

漁業技能研修や経営改善指導などにより、漁業担い手の確保・育成を図ります。また、漁業体験学習の実施など、子どもたちの漁業への理解を深める取組を進めます。

## 施策

## 2

## 生産基盤の確保と整備の推進

生産性向上のための農地の大区画化など農業生産基盤を強化するとともに、農業水利施設の長寿命化など保安全管理を図ります。また、生産現場や消費者等の多様なニーズに対応した研究開発を戦略的に推進します。



## 【主な取組】

## ①農業生産基盤の強化に関する取組

生産性向上のための農地の大区画化・汎用化及び担い手への農地の集積・集約を推進します。

## ②農業水利施設の保安全管理に関する取組

農業水利施設の計画的な補修・更新等により、長寿命化、ライフサイクルコストの低減を図ります。

## ③試験研究に関する取組

県オリジナル品種、省力化技術、地球温暖化への対策技術など、生産現場や消費者等の多様なニーズに対応した研究開発を戦略的に推進します。

## 施策

## 3

## 需要を創出する流通・販路戦略の実践

県産農林水産物の安全と信頼を確保するとともに、産地をけん引するトップブランドの育成や商談機会の提供など販路拡大を推進します。また、地場産品の消費拡大や県産材の利用促進など地産地消を推進します。



## 【主な取組】

## ①県産農林水産物のブランド化に関する取組

産地をけん引するトップブランドの育成や県産農林水産物の魅力の発信を戦略的に進めます。

## ②県産農林水産物の販売促進に関する取組

量販店におけるフェアやオンラインストアの活用、食品事業者等とのマッチング、商談機会の提供により販路拡大を推進します。

## ③県産農林水産物の輸出に関する取組

県産農林水産物の安全性や品質の高さ等に関する情報発信、輸出先のニーズに応じた生産体制整備などにより、輸出再開と輸出の拡大を図ります。

## ④県産農林水産物の地産地消に関する取組

農産物直売所等との連携による販売キャンペーンや、保育所や学校の給食での地元食材の活用など、県産農林水産物への理解を深め、消費拡大につながる取組を推進します。

施策

4

戦略的な生産活動の展開

施設整備や高性能機械導入等の支援による主要農林水産物の生産性向上、低コスト化、「ふくしま」ならではの付加価値化の取組など、産地の生産力、競争力の強化による戦略的な生産活動への展開を図ります。



【主な取組】

①県産農産物の生産性向上に関する取組

先端技術等や機械・施設、優良な家畜の導入、集出荷施設の整備等により、主要農産物の生産性の向上と低コスト化を推進します。

②スマート農業に関する取組

先端技術の開発・実証を進めるとともに、地域の実情に応じた技術の導入によるスマート農業の普及拡大を進めます。

③林業の生産性向上に関する取組

効率的な森林整備のための林内路網整備、県産材の安定供給に向けた高性能林業機械導入や木材加工施設整備を推進するとともに、素材生産の拡大に向け、市町村への新たな森林管理システムの導入を支援し、意欲と能力のある林業経営者への経営管理の集約化等の取組を支援します。

④水産業の振興に関する取組

水産資源を管理しながら生産額を拡大する「ふくしま型漁業」の実現に向けた総合的な取組を推進します。

⑤産地競争力の強化に関する取組

トップブランド米「福、笑い」の生産・流通販売対策やGAPなどの認証を活用したPR等、消費者、実需者にとって魅力的で、市場優位性を高める「ふくしま」ならではの付加価値化に向けた取組を推進します。

施策

5

活力と魅力ある農山漁村の創生

農林水産業・農山漁村の持つ役割に対する理解促進を図るとともに、地域ぐるみで行う共同活動の支援、多様な地域資源を活用した活動など農山漁村づくりを推進します。また、地域産業6次化を推進し、農山漁村の活性化を図ります。



【主な取組】

①農林水産業・農山漁村への理解促進に関する取組

情報発信や農林漁業体験機会の創出などにより農林水産業・農山漁村が持つ役割に対する理解促進を図ります。

②地域産業6次化に関する取組

地域産業6次化に取り組む新たな担い手の育成、マーケットインの視点に基づく商品開発への支援、多様な職種が参画するネットワークの活性化などにより、地域産業6次化を推進します。

③鳥獣被害防止に関する取組

住民が主体的に地域ぐるみで行う総合的な対策の普及拡大や、里山林における緩衝帯設置への支援など、鳥獣被害対策を推進します。



小学生の農作業体験



スマート農業の活用に適した基盤整備



県オリジナル品種「福、笑い」デビュー



地域の共同活動による鳥獣被害防止対策



「福、笑い」は、更なる評価、新しい美味しさを追求するため14年もの月日を費やして県が開発し、選ばれた生産者だけが栽培することができる特別なお米です。

福島県の清らかな水、恵まれた気候風土、磨き上げられた生産者の技術、米づくりへのこだわり、開発者の情熱などふくしまの全てが詰まっています。「かおり、あまみ、ふくよかさ」これまでにない個性的な食感・食味が持ち味です。

本県のトップブランド米としてブランド米市場へ参入し、県産米全体のけん引役として、県産米のイメージアップ、販売シェア拡大及び販売価格アップを目指します。

## 基本指標（成果指標）

### < 政策 3 >

もうかる農林水産業の実現			
農業産出額	< 現況値 > < 目標値 >	2,086 億円 ↑ <b>2,400</b> 億円	(R 元年) (R12 年)
林業産出額	< 現況値 > < 目標値 >	106 億円 ↑ <b>152</b> 億円	(R 元年) (R12 年)
沿岸漁業生産額（再掲）	< 現況値 > < 目標値 >	21 億円 ↑ <b>100</b> 億円	(R2 年) (R12 年)
県産農産物価格の回復状況（米）（再掲） ※県産農産物取引価格の全国平均価格に対する割合。震災前（H22）の割合を 100* とした場合の、現在の水準。 * 震災前の米の全国平均価格に対する県産米価格の割合：98.40%	< 現況値 > < 目標値 >	98.43 ↑ <b>100</b>	(R 元年) (R12 年)
// （もも）（再掲） * 震災前のももの全国平均価格に対する県産もも価格の割合：90.92%	< 現況値 > < 目標値 >	93.97 ↑ <b>100</b>	(R2 年) (R12 年)
// （牛肉）（再掲） * 震災前の牛肉の全国平均価格に対する県産牛肉価格の割合：95.74%	< 現況値 > < 目標値 >	90.58 ↑ <b>100</b>	(R2 年) (R12 年)

### < 施策 >

農林水産業の多様な担い手の確保・育成			
新規就農者数	< 現況値 > < 目標値 >	204 人 ↑ <b>340</b> 人	(R2 年度) (R12 年度)
生産基盤の確保と整備の推進			
ほ場整備率	< 現況値 > < 目標値 >	73.0% ↑ <b>78.0</b> %	(R2 年度) (R12 年度)
需要を創出する流通・販路戦略の実践			
第三者認証 GAP 等を取得した経営体数	< 現況値 > < 目標値 >	680 経営体 ↑ <b>1,800</b> 経営体	(R2 年度) (R12 年度)
県産農産物の輸出額（再掲）	< 現況値 > < 目標値 >	227 百万円 ↑ <b>300</b> 百万円	(R2 年度) (R12 年度)
戦略的な生産活動の展開			
スマート農業技術等導入経営体数（再掲）	< 現況値 > < 目標値 >	525 経営体 ↑ <b>950</b> 経営体	(R2 年) (R12 年)
活力と魅力ある農山漁村の創生			
野生鳥獣による農作物の被害額（再掲）	< 現況値 > < 目標値 >	179,326 千円 ↓ <b>90,000</b> 千円	(R 元年度) (R12 年度)
自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合（意識調査）（再掲）	< 現況値 > < 目標値 >	86.0% ※速報値 ↑ <b>95.0</b> % 以上	(R3 年度) (R12 年度)

## 補完指標

(指標名)	(現況値)	(目標値)
◆「農林水産業の多様な担い手の確保・育成」関連		
・認定農業者数	R元年度 7,377 経営体	R12年度 8,500 経営体
・新規林業就業者数	R2年度 78 人	R12年度 140 人
・沿岸漁業新規就業者数 ※現況値は H23 年～ R2 年までの 10 年間の累計 ※目標値は、本格操業に向けた取組を開始した R3 年～ R12 年までの累計	— 75 人	R12 年 100 人
・農業経営収入保険への加入件数	R2 年 1,513 件	R12 年 5,120 件
・農産物販売金額 1,000 万円以上の農業経営体数	R2 年 2,746 経営体	R12 年 3,500 経営体
◆「生産基盤の確保と整備の推進」関連		
・担い手への農地集積率	R2 年度 37.5%	R12 年度 75%
・農林水産試験研究機関が開発した技術件数 ※現況値は H24 年度～ R2 年度までの 9 年間の累計 ※目標値は R3 年度～ R12 年度までの 9 年間の累計	— 265 件	R12 年度 315 件
◆「需要を創出する流通・販路戦略の実践」関連		
・地元産の食材を、積極的に使用していると回答した県民の割合（意識調査）	R3 年度 74.6% ※速報値	R12 年度 90.0% 以上
◆「戦略的な生産活動の展開」関連		
・森林整備面積	R2 年度 6,004ha	R12 年度 8,000ha
◆「活力と魅力ある農山漁村の創生」関連		
・農産物の加工や直売等の年間販売金額	H30 年度 461 億円	R12 年度 570 億円